懇話会議事要旨

１　名　　称　　第１回南芦屋浜地区まちづくり懇話会

２　日　　時　　令和３年１１月２日(火)　９時３０分～１１時００分

３　場　　所　　芦屋市総合公園　会議室

４　出 席 者
自治会　自治会組織６団体８名
有識者　川口会長（大阪産業大学　准教授)、佐久間副会長（和歌山大学　准教授）
兵庫県　森安委員（阪神南県民センター 副センター長)、
高瀬委員（企業庁 分譲企画参事)、濱本（企業庁分譲企画班長）
芦屋市　西田委員（技監)、辻委員（都市建設部長）
都市計画課　課長 柴田、主幹 長良、係長 岡本、係長 小栗

５　話し合われた主な内容

懇話会について

市から懇話会は、多様な立場の方が協力連携し、まちづくりを推進することを目的としており、当面は未利用地の土地利用について意見交換を行うものであることを説明した。

ご参加いただいた自治会の方から、会の進め方について、以下のご意見があった。

・まずは軸となる県・市のプランを示し、その過不足を補うために、住民の意見を聴くべきではないか。
・住民の様々な意見に対して、メリットとデメリットを示したうえで意見を聴かないといけない。

南芦屋浜のまちづくりについて

市から南芦屋浜地区の現状と潮芦屋プランなどによるまちづくりの概要を説明し、意見交換を行った。意見交換の概要は以下の通り。

全体的な考え方について

・県や市は、活用されていない土地について、元々どのような計画を持っていたのか。
・市内のなかでも、この地区は人口が増える、若い世代が入ってくる可能性のあるエリアだと思うので、そうした人たちが移り住みたいと思うまちづくりをするとよい。
・ベッドタウンなので昼間は人がいない。朝、出て行き、夕方、戻ってくるという人の流れが一方通行になっている。そうではなくて、双方向の人の流れを作り、日中にこの地区で生活・活動する人を増やすと賑わいのあるまちになる。手っ取り早い方法としては役所機能を持ってくること。
・台風 21 号の後、涼風町南東の戸建てエリアでは、分譲の進捗が悪くなったと思う。今の状況で、戸建てエリアを増やすのは得策ではない。
・住民の高齢化が深刻で、高齢者の一人住まいが多い。健康のために外に出て運動などをすることが必要。高齢者が出歩きたくなるまちづくりをしないといけない。

市の発言

・今、示している活用されていない土地は、潮芦屋プランなどの計画では、住宅とする考えを持っている。しかし、地区内の土地利用が進んできた現在、将来のまちを考えたときに必要とするものは何かを考えて、土地活用をしていきたい。

地域コミュニティの場について

・芦屋市はコミスクが充実している。南芦屋浜地区は潮見小学校校区になるが、この地区で活動できないことや、コミスクに参加できない子どもたちが取り残されることを危惧している。
・学校を中心に人が集まることは大切なことと思う。当初、予定されていた南芦屋浜地区内の小学校建設の計画がなくなったことは、非常に大きな出来事で、コミュニティが充実していないと感じる。
・潮芦屋交流センターはこちらの思うタイミングで借りられず、地域の集会所となっていない気がする。皆さんで自由に集える場所が欲しい。
・市内のほかの地域には、地域の人が自由に使える場所はあるのか。

市の発言

・マルチに使える空間は、市内で同様の事例がないからできないというのではなく、検討の余地があると思う。
・現在、活用されていない土地は、基礎的な用途を定めているが、細かな土地利用の規制は定めていない。どのような活用をするのが良いのかを考え、それによって土地利用規制をかけることとしている。

生活利便施設について

・若い世代はいらないだろうが特に高齢者にとっては、銀行、郵便局、消防等が必要。郵便局などは採算が取れないから無理だという答えは聞いているが、考え直す機会があれば、これらの意見はでてくる。
・商業施設を拡大するならば、スターバックスなどのカフェ、ラーメン、うどん、そばなどの飲食店、ユニクロやGUなどの衣料品店などもあればうれしい。
・商業施設をこれ以上増やす場合のリスクとして、地区以外からの人の流れが増える可能性がある。そのことによるマナーや交通渋滞などの問題も一方ではあることを考える必要がある。
・コロナで外出しにくい状況になり、病院や飲食店が身近なところになくて困ったので、そうした施設を考えてほしい。

防災施設について

・こども園は、平屋で津波避難としての防災機能がない。３、４階までの建物を容認して備蓄庫を含め、防災機能のある堅牢な施設を置くべきではないか。涼風町の係留施設のある空き地が目立たなくて良いと思う。
・防災施設は、使用頻度が低く、税金をかけてこの地区に整備することが、費用対効果の点から全市的に容認されるだろうか。
・市からマンションに避難場所としての使用要請があり、どのエリアの人がどこに避難するのか明確な計画を立ててほしいと言っているが、計画されていない。防災計画も完璧なまちだと言わないと土地が売れなくなる。
・涼風町の南側の外周道路は閉鎖され、人しか通れない状況のままだが、何かあったときにどうやって逃げるのか。いつになったら開けるのか。
涼風町の南側の外周道路は、暴走行為の対策として閉鎖しており、ほかの対策案がでてこない。
・高潮・津波リスクのない完璧なゾーンと思い、購入した我々は、被害想定や測量のミスがショッキングだった。台風 21 号の被災後、リカバリーしている様が伝わってこない。土地を売ろうと思うならば、その懸念が払拭されているのか。
・下水処理場が避難場所になっているが、委託管理されていて職員がいないため、防災

情報が行き届いていないし、夜間は閉鎖されている。きちんと利用できるようにするべき。運営会社と防災協定を結んでほしい。
・コーナンは、他地域で災害時に屋上駐車場を開放するなどの取り組みをしている。商業施設を平屋ではなく複数階建てにし、防災拠点にするなど、民間活用するやり方がある。
・市から防災に関する情報を的確に発信すべき。どのような災害・被害が想定されているのか分かっていない人が多い。情報や説明が足りていないので、恐怖心を持ったり過剰反応したりするのだと思う。
・ひとつひとつ説明をして、その積み上げで安心なまちだということを周知徹底してほしい。
・高潮対策工事が完成したら、県知事と市長が完成したことをニュースに出したらよい。誰が発信するかによって全然違う。リーダーが発信することで地域も安心するし、不動産価値も高まる。
・シーサイドは、阪神淡路大震災で液状化した。南芦屋浜地区の液状化対策はしていると聞くがどうなのか。

市の発言
・コーナンとは防災協定を締結しており、災害時の物資の供給をしていただける。
・市で想定する最悪なケースは、大雨、高潮による、土砂、洪水、浸水の被害であり、２万人の避難者を想定している。ソーシャルディスタンスを考えなければ、１万９千人が避難できる計算である。（２㎡/人）
・浸水による長期間の避難が必要となった場合は、課題がある。

県の発言
・高潮対策では約 100 億円使い、今シミュレーションできる最大値でもなんとか大丈夫だろうという整備をしている。ハザードマップについても、もっと住民の皆さまに説明をしていく必要があると考えている。
・液状化に関して、技術的な詳細は別で確認する必要があるが、建物が傾くような不同沈下は生じない工法で埋め立てしている。

交通安全について
・こども園の北側は、出合い頭の交通事故がよく起きるので、10 年以上信号の設置を要望しているができていない。信号を新設する県の予算がなくできないといわれるが、新しいまちは、交通量も増えてくるので新設整備すべきだ。
・一時停止などの路面標示は充実されてきているが、信号の設置は進んでいない。

全体を通して有識者の意見
・生活者の実感でいろいろ気が付いていることを意見交換するこのような場、またそのときに情報の公開や共有、交換をする、そういった場を持ち続けることが大事だと思う。
・持続性、双方向のまちにするために、どういうまちにする必要があるのか、まちの大きなイメージをつくってから空地の話になっていくという順番で考えていくのが良いと思う。
・まちづくりを考えるときに行政がすべて描けという議論は難しく、以前に比べ、民間と行政の境目はなくなってきているので、お互いにできること、得意なことを持ち寄り、融合を図ることが大切。
・防災対策に万全なまちなのだと皆さんが思え、あるいは新たに来る方に自信をもって伝えられるような対策というのは、行政ができることと住民としての活動の両方をもって、つくっていく必要があると思う。

・災害に対して事実を正しく伝え、正しい知識を身につけて、正しく恐れる。防災の教育や情報の共有ということが大事ではないか。
・防災上のリスクだけ強調するのではなく、海辺にある価値、資源、良いところを併せて大きなコンセプトの中に盛り込み、次の世代にバトンが渡せるようなまちづくりを描けるのではないか。このまちには可能性があると感じる。
・キーワードの一つが「住み続けられる」まちではないか。防災、まちの強靭化をどうしていくのか、日常生活の安全を守るということが、「住み続けられる」ことのベースになる。そして、そこに住むとなったときにコミュニティの話になる。次世代とのつながり、多世代のつながりが、子どもをとおしてコミュニティの拠点ができていくことで「住み続けられる」まちになっていくのではないかと思う。
　学校を作る、何かを作るというよりも、行政や民間の施設に住民の皆さんができることを持ち寄る、シェアする、多くのプレイヤーが集まる、というように利用しながら「住み続けられる」まちをつくっていく視点が重要になってくる。
・生活利便施設の充実については、皆さんの意見にもあったように、他者が来ることによる渋滞など負の問題、メリット・デメリットについても意識されながらどうしていくかを考えていくことが大事。
・皆さんがこの地区のことを「島」というのが印象的。離島の島ではなく、この立地にあるからこそのこの島の暮らし方があると思う。次回以降、その中で、「選ばれるまち」「選び続けられるまち」になるように、何をよりプラスにもっていけるのか、こんなことをしたい、こんな使い方がしたいというプラス側の意見交換ができれば、必要な施設は何か、どのような組み合せ方ができるのかなどの議論になっていくのではないか。